

I. 法人の概要

1. 学校法人の沿革

- 昭和 26 年 6 月 愛知県より菊武タイピスト学校（現：菊武ビジネス専門学校）設置認可
- 昭和 28 年 2 月 愛知県より学校法人高木学園（現：菊武学園）設立認可
- 昭和 37 年 4 月 守山女子商業高等学校（現：菊華高等学校）開設
- 昭和 40 年 4 月 名古屋女子商科短期大学（現：名古屋経営短期大学）開設
- 昭和 43 年 4 月 守山女子商業高等学校に通信制課程開設
- 昭和 44 年 4 月 菊武幼稚園開設
- 昭和 63 年 4 月 名古屋女子商科短期大学に経営情報科開設
- 平成 4 年 4 月 守山女子商業高等学校を菊華高等学校と改称し、全日制課程普通科開設。
- 平成 7 年 4 月 ビジネス教養専門学校エクセレンス開設
- 平成 12 年 4 月 名古屋産業大学環境情報ビジネス学部開設
- 平成 16 年 4 月 名古屋産業大学大学院前期（修士）課程（環境マネジメント研究科）開設
名古屋産業大学環境情報ビジネス学部に人間環境マネジメント学科増設
- 平成 19 年 4 月 名古屋経営短期大学ビジネス実務学科・人間情報学科の募集を停止し、2 学科を統合した形の総合ビジネス学科を開設。
名古屋産業大学大学院後期（博士）課程（環境マネジメント研究科）開設。
名古屋経営短期大学子ども学科開設。
- 平成 20 年 4 月 名古屋経営短期大学健康福祉学科開設。
- 平成 23 年 4 月 稲葉保育園開設（尾張旭市指定管理事業）
菊華高等学校にスポーツアクトコース開設
- 平成 24 年 4 月 ビジネス教養専門学校エクセレンスの校名を変更
専門学校名古屋ウェディング&フラワー・ビューティ学院に改称する。
- 平成 26 年 4 月 名古屋経営短期大学総合ビジネス学科の募集を停止し、未来キャリア学科開設。
- 平成 27 年 2 月 菊華高校通信制課程普通科（単位制）開設認可

2. 設置する学校の学部、学科および各学校の入学定員、現員数

平成 27 年 4 月 1 日現在

学 校 名	学部・学科・課程名等	入学定員	収容定員	入学者数	現員数
名古屋産業大学大学院	環境マネジメント研究科	前期課程 10 人	20 人	13 人	23 人
	環境マネジメント専攻	後期課程 3 人	9 人	1 人	4 人
名古屋産業大学	環境情報ビジネス学部 環境情報ビジネス学科	190 人	830 人	115 人	462 人
名古屋経営短期大学	未来キャリア学科	100 人	200 人	44 人	37 人
	総合ビジネス学科	募集停止	135 人	—	5 人
	子ども学科	80 人	220 人	40 人	129 人
	健康福祉学科	60 人	120 人	35 人	70 人

学 校 名	学部・学科・課程名等	入学定員	収容定員	入学者数	現員数
菊華高等学校	全日制課程情報ビジネス科	270 人	810 人	67 人	207 人
	全日制課程普通科	90 人	270 人	241 人	720 人
	通信制課程商業科	150 人	450 人	201 人	515 人
	通信制課程普通科(単位制)	80 人	240 人	10 人	10 人
菊武幼稚園		69 人	209 人	73 人	214 人
菊武ビジネス専門学校	商業実務専門課程	80 人	80 人	13 人	13 人
	商業実務高等課程	240 人	720 人	201 人	515 人
専門学校名古屋リエンジニアリング &フラワー・ビューティ学院	商業実務専門課程	160 人	280 人	168 人	288 人
	文化教養専門課程	40 人	80 人	24 人	44 人
合 計		1,662 人	4,753 人	1,197 人	3,314 人

3. 役員に関する事項

当学園の平成 28 年 3 月 31 日現在の選任区分別理事及び監事は以下のとおりです。

寄附行為の理事定数は 8~11 人、監事定数は 2~3 人で、欠員はありません。

- 1号理事（教職員）：伊藤 雅一、山岸 鳴門、鈴木 悦子
 2号理事（評議員）：井元 明正、渡邊 哲郎
 3号理事（学識経験者）：高木 弘恵、高木 清秀、吉田 雅樹、岡谷 篤一、山口 淳
 監 事：青木 修（常勤）、那須 國宏（非常勤）、澤田 忠男（非常勤）

なお、現在 1 号理事の伊藤雅一氏が、平成 28 年 3 月 31 日付けで名古屋産業大学・学長を辞任されることに伴い、寄附行為第 6 条第 2 項の規定により 1 号理事の職を退き、平成 28 年 3 月 25 日の理事会で後任学長として選任された 3 号理事の高木弘恵氏が寄附行為第 6 条第 1 項の規定により平成 28 年 4 月 1 日付けで 1 号理事に、伊藤雅一氏は 3 号理事に選任替えされ就任予定です。

4. 評議員に関する事項

当学園の平成 28 年 3 月 31 日までの選任区分別評議員は以下のとおりです。

寄附行為の評議員定数は、19~24 人で、欠員はありません。

- 1号評議員（法人職員）：高木清秀、山口 淳、二宮邦夫、内山哲治
 水野武文、杉村邦彦、神谷 篤、天野雪代
 2号評議員（学園卒業者）：浅井明己、大石清美
 3号評議員（学識経験者）：高木重幸、井元明正、池田英二、竹内隆史 平本晴康
 渡邊哲郎、高木秀典、高木弘恵、原田隆史、大嶋啓介
 市橋 豊、杉山寿美、志水暎子

なお、菊武幼稚園・園長二宮邦夫氏が平成 28 年 3 月 31 日をもって退職される事に伴い、1 号評議員を辞任する事になります。後任は、平成 28 年 4 月 1 日付けで菊武幼稚園・園長に就任予定の石原靖章氏が 1 号評議員に推薦されています。また、高木武彦学園長が逝去後空席となっていた 3 号評議員には、平成 28 年 3 月 31 日付けで名古屋経営短期大学健康福祉学科・学科長を退職された志水瑛子氏が 3 号評議員に選任され、就任いたしました。

5. 教職員・その他に関する事項

名古屋産業大学・学長の伊藤雅一氏が、平成 28 年 3 月 31 日をもって学長職を辞するに伴い、後任として理事長兼名古屋経営短期大学学長高木弘恵氏が平成 28 年 4 月 1 日付けで新学長に就任する予定です。菊武幼稚園園長の二宮邦夫氏が平成 28 年 3 月 31 日付けで退職される事に伴う後任園長には、同日付けで尾張旭市立三郷小学校校長を定年退職される石原靖章氏が就任する予定です。

II. 事業の概要

1. 平成 27 年度の入学者数

平成 27 年度の入学者数は、大学は大学院も含めて 3 名の微増、短大では 8 名の減、高校（全日制・通信制）で 10 名の増、幼稚園は 4 名の減、菊武ビジネス専門学校は 15 名の増、専門学校名古屋ウェディング&フラワー・ビューティ学院は 35 名の増で学園全体の入学者数としては、51 名の増加となりました。

平成 27 年 4 月の在籍者数は、大学は卒業生数が入学者数を上回り在学生数で 51 名の減、短大も 39 名の減となりましたが、高校（全日制・通信制）で 26 名の増、幼稚園で 2 名の増、菊武ビジネス専門学校で 8 名の増、専門学校名古屋ウェディング&フラワー・ビューティ学院で 40 名増となりましたが、学園全体の在学生総数は前年度より 14 名少ない 3,300 名となりました。

2. 平成 27 年度のその他の事業概要

【学園本部】

27 年度は、高校南館の耐震補強工事と名古屋ウェディング&フラワー・ビューティ学院校舎の ZEB 化工事を推進する傍ら、4 月「各部門の新年度の重点取組み」、6 月にはスポーツ交流「ソフトバレーボール大会」、9 月「あなたの体はだいじょうぶ？生活習慣病とロコモティブシンドロームの予防」の講演、1 月にはパネルディスカッション「自治体と学園・学校との連携教育」、3 月には「教職員の表彰と音楽パフォーマンスを交えた懇親会」と計 5 回の学園研修を実施し、8 月には、地元アイドル「ボーメン」も出演した「菊武夏まつり」を実施しました。

【名古屋産業大学】

大学では、27 年度は 26 年度より無就活大学を目指してスタートしたビジネス・トレーニングプログラムの最終年度でしたので、プログラムの中心となる長期・短期インターンシップのさらなる充実を目指し受入先の開拓に注力しました。この結果、グリーンシティケーブルテレビ、中日ドラゴンズ、名古屋オーシャンズ、日本ワーキングホリデー協会などが新しい企業インターンシップ先に加わりました。企業インターンシップをサントリービバレッジサービス(株)、(株)フォナックスサーバーなどで行い、インターンシップ先の企業に就職する学生も出てきました。農山村

インターンシップは三重県津市三杉町、長野県阿智村で行い、名産大 GSB 学内インターンシップとして尾張旭市役所（総合体育館）や尾張旭市内企業（JA グリーンセンター）を対象に LED 照明導入の模擬提案活動を行うなどの国内インターンシップが実施されました。海外インターンシップとしては、オーストラリア（HIS 等）や台湾（兆品ホテル）でインターンシップを実施しました。また、25 年度から続く入学者数激減という厳しい状況を踏まえ、27 年度も(1)大学の特色や実践教育の動きを具体的に把握し、高校生・保護者・高校関係者に説得力のある説明を行うこと、(2)入試広報重点校との結びつきを強化することを主眼とした高校訪問を行うこと、(3)高校生に直接訴える WEB サイトや動画配信を充実することの 3 点を最重点に置いた入試広報活動を展開すると同時に、休退学者の減少に向けた取り組みを強化するため、(1)単位修得が少ない学生のサポート強化、(2)学生サポーターによる履修登録等のピアサポートの導入、(3)学生カルテとポートフォリオを活用した学修支援の充実、(4)スポーツ学生を対象とした出身校の監督との情報交換、(5)こころの問題に対する専門医との相談体制づくり、(6)学業とアルバイトの両立支援を行うアルバイトプロジェクトの活性化などの取り組みを引き続き行いました。

【名古屋経営短期大学】

短大では、27 年度は①学生募集、②授業改善、③きめ細かい学生サポートの強化の 3 つの課題解決に取り組みました。

5 月には、健康福祉学科がウォークラリーと学内合同施設説明会、未来キャリア学科がブライダルレストラン取締役によるライフプランニング特別講義を行い、子ども学科が尾張旭市の 9 児童館での「こどもまつり」に参加し幼児との交流の仕方を学びました。8 月には、三学科合同のイベントとして、おんたけ休暇村で絆活動夏合宿を行いました。9 月には、夏季インターンシップが瀬戸市役所、尾張旭市役所（図書館）、グリーンシティケーブルテレビ、ANA グランコートホテル、名古屋観光ホテルなどで行われました。10 月には、子ども学科 1 年生が稲葉保育の運動会に参加し園児との交流を楽しみました。11 月には、尾張旭市長との地域合同清掃や尾張旭市と連携した「池こね」に参加しました。12 月には、使用済み牛乳パックで作った手作りランタンのイルミネーションがキャンパスに点灯され、地元の親子を招いたクリスマス会が文化センターで開かれました。3 月には、子ども学科の学生が教員に引率され「海外多文化保育研修」で台湾を訪れました。

27 年度も就職などでよい効果を上げることを期待して「資格・検定」の取得を奨励し、未来キャリア学科・子ども学科・健康福祉学科の 3 学科共就職率 100%を達成しました。

【菊華高等学校】

27 年度は、学園の建学の精神である「職業教育をとおして社会で活躍できる人材の育成」を実現するため、校訓の「誠実・創造・健康」を日々の学校生活の中で実践的に指導し、自ら学び、考え、正しい判断の基に行動できる豊かな人間性と心身ともに健康な生徒の育成に努め、生徒一人ひとりがもつ能力・適性・興味・関心を十分に把握して個性と能力を伸ばし、教職員が生活面

の指導と教科面の学力向上に一致団結して取り組みました。そして主人公である生徒の力を最大限引き出すことに全力であたり、どのような逆境にも負けない精神力と、社会貢献ができる人材を育て、全ての生徒と保護者が満足する教育を目指しました。

学校では集団生活を通して、社会人としての基礎基本である規範意識・マナー・挨拶・言葉遣い・態度・服装等に注意し、自らが自覚できる生徒指導をしました。また、自己の目標を実現させるために、学業や資格取得に主体的、積極的に取り組み、目標達成のため、普通科・情報ビジネス科及び各コースの魅力ある授業展開の中から特徴を強く打ち出し生徒募集につなげる教育を推進しました。

5月には、てっぺん代表取締役大嶋啓介氏による「『夢』と[ありがとう]で世界を元気に！」の表題でキャリア教育講演会と1年生を対象とした薬物講習会を実施、6月には、STEP英検、全商電卓検定、漢字検定、硬筆書写検定、全商簿記検定、秘書技能検定の6つの検定試験を実施、7月には、夏の体験会講座を実施し中学生に菊華高校を知ってもらうための部活体験など多彩な講座を開きました。8月には、中学将棋選手権大会を開催した他、夏休み中の部活も活発でサッカー部が全国高校サッカー選手権大会愛知県大会に出場、ソフトボール部が名古屋市選手権大会優勝、ソフトテニス部が市民スポーツ祭で優勝、ダンス部が全日本高校・大学ダンスフェスティバルに出場、陸上部が女子三段跳で東海大会出場するなど大活躍でした。9月文化祭、10月体育祭を実施、11月は1・3年遠足、2年は修学旅行（沖縄）を実施、12月には小幡緑地公園でナラ・ブナの植林を実施、1月には、スケート部の選手がスピードスケートとフィギアでインターハイに出場し、ショートトラックでは国体に出場しました。3月には、冬休みを利用して箏曲部が「旭労災病院」と「本地が原野外ステージ」で公演を行いました。

【菊武ビジネス専門学校】

27年度も、「安心して学べる学校」づくりと入学者200名以上確保を「今年こそ実現！」を合言葉に全教職員一致団結して全力投球で涉外活動に臨む体制づくりと、引き続き3級以上の検定合格（資格取得）に力を注ぎ、多数の合格実績を上げ、就職に強いイメージづくりに取り組みました。

5月には例年のごとく1年生郡上オリエンテーション合宿、2・3年生校外学習（長島スパラウンド）を実施しました。6月にはど真ん中祭り参加説明会を実施し、8月の本番に向けて準備を始めました。7月にはウィルあいち大ホールで映画鑑賞会を実施しました。8月につぼんど真ん中祭りと菊武夏祭りで教員・生徒約90名が演舞をしました。10月には、「体育祭」を愛知県体育館で実施しました。

課外活動の面では、5月一^{いちむらこうき}村洗輝選手が県ウェイトリフティング競技会で準優勝に輝き東海大会への出場を決めました。10月愛専各主催の県卓球大会高等課程の部個人戦で入賞し、12月の全国専門学校卓球選手権大会に出場し繁^{とさ}田蒼^{あや}夜選手が優勝しました。1月には名古屋情報メディアにおいて「私学商業実務競技大会」に参加し、簿記1年の部で優勝、2・3年の部で3位、ワープロの部で3位、情報の部で3位に入賞しました。2月には国民体育大会冬季大会のスケートショートトラックに高野晃生選手が出場しました。

【専門学校名古屋ウェディング&フラワー・ビューティ学院】

27年度も、①学生募集の有利化を図るための早期内定（数値目標：100%）に導く就職指導、②「美・食・健康」業界へのアプローチと「企業間連携」の仕組みの構築、③学科別インターンシップの推進、④学科に即したアルバイト先の確保と支援、⑤「講師会」による就職先の確保及び就職活動の支援、⑥新規求人開拓及び本校支援企業への訪問活動 に取り組みました。

4月に愛知リトルガーリー着物コレクションに参画、5月には体育祭（スポーツ大会）を実施、6月には、ブライダル科の学生にウェディングの実践を学ばせる模擬結婚式を「クレールベイサイド」と「ピアンカーラ」で行いました。7月には、豊明花卉卸売市場で園芸装飾実技試験を愛知県植木センターで造園検定実技試験を行いました。8月には名古屋産業大学ホールにて桂由美特別講演とともにエステティックコンテスト・スチューデント部門・中部北陸地区大会が行われました。9月には「グリーンデザイン」の校外授業として星が丘テラスの花壇の植え込みを「ガーデニング」の校外授業として愛・地球博記念公園モリコロパークイベント設営を行いました。10月にはトータルビューティ科が5日間のバリ研修旅行を実施し、月末には文化祭が開催されました。11月には硬筆書写検定、色彩検定、サービス接客検定が行われた他、校外授業として「ヴェルミヨン・バーグ」で式場見学とテーブルマナー研修が行われました。12月には技能五輪全国大会フラワー装飾部門（幕張メッセ）と造園部門（木場公園）に参加した他、リゾナーレ八ヶ岳にてブライダル研修を行いました。2月には富士第二ホテルにて学生がプロデュースする「本物の結婚式」、秘書検定他各種検定、ナディアパークでの卒業作品展を行いました。

【菊武幼稚園】

「自信をもって小学校に進学できる子」を育てるため、〈感動ある行事の実現〉に取り組みました。27年度も例年のごとく5月に春の親子遠足、6月に避難訓練・交通安全指導、ふれあい七夕まつりを実施、10月に運動会、いもほり、春日井市民パレードへの参加、秋の遠足を実施、11月に幼年消防クラブの発表、12月に生活発表会とクリスマス会を開催、1月に新年子ども会、2月に「ふれあい参観」（作品展・お店やさんごっこ）を実施し、3月ひなまつりの集いを実施しました。

【稲葉保育園】

「よく遊ぶ元気な子」を育てるため、〈自然とふれあい、元気になる遊び〉に取り組みました。

27年度も園児達の「ふれあい球遊び（サッカーボールで遊ぼう）」と「お花で遊ぼう」をほぼ毎月実施、5月は子どもの日を祝う会、緑のカーテン種まき、6月、7月は短大子ども学科と連携した「粘土遊び」と七夕制作、8月蝉とりと粘土遊び、9月地域のお年寄りとの「ふれあい会」、10月稲刈りと芋掘りをし、11月におにぎりパーティーと焼き芋パーティー、12月にクリスマス会、1月には、地元のお年寄りの指導で凧作り凧揚げ、2月節分会と1年間よく遊ばせました。

3. 平成 27 年度の主な契約

学 園 本 部：名鉄瀬戸線栄町駅 広告掲出契約

シティアスコム TOMAS との給与システムリース契約

尾張旭市役所との稲葉保育園指定管理料増額変更契約

名古屋産業大学：サッカー場照明設備新設工事請負契約、

スクールアグリーメント購入・オンラインサービス追加契約、

2号館トイレ改修工事請負契約

256PC 教室機器更新リース契約

名古屋経営短大：1号館空調設備更新工事請負契約

菊 華 高等学校：南館耐震補強工事請負契約、

南館・本館トイレ改修工事請負契約

ノートパソコン他物品売買契約、

中古マイクロバス売買契約

アクトコース教室スポーツロッカー取り付け工事契約

学校案内パンフレット制作請負契約、

スクールロッカー取り付け工事契約

トレーニングルーム鏡取付工事契約、

印刷機リース契約

菊 武 幼稚園：通園バス運行管理契約

菊 武 ビジネス：1M シンククライアントシステム更新リース契約、

2M プロジェクターリース契約、

校用車リース契約

N W F B：空調設備更新等 ZEB 化工事請負契約、

美容機器売買契約

屋上防水補修工事請負契約、

AV システム売買契約

Ⅲ. 財務の概要

1. 経年比較

当年度の決算について、前年度決算と比較しながら若干の説明を付してその概況をご報告いたします。なお、金額は千円未満を四捨五入して示しています。

(1) 資金収支計算書

(資金収入の部)		(単位：千円)		
科 目	26 年度決算	27 年度決算	差 異	
学生生徒等納付金収入	1,783,914	1,744,369	△39,545	単価の高い学校での在籍者数減による収入減で減少。
手数料収入	25,496	24,806	△690	
寄付金収入	12,402	13,314	912	
補助金収入	687,389	809,310	121,921	高校で耐震化補強工事、専門学校で ZEB 化工事を行いましたので国庫補助金(施設)、地方公共団体補助金(施設)がともに増えました。
資産売却収入	237	200,000	199,763	
事業収入	37,333	27,196	△10,137	
受取利息・配当金収入	9,991	10,516	525	資産売却収入は、有価証券の洗い替えを行ったため増加。収入・支出ともに増えています。
雑収入	33,788	46,935	13,147	
前受金収入	434,224	451,651	17,427	
その他の収入	304,407	244,712	△59,695	事業収入は、県の介護人材確保事業による短大での職業訓練生の受入れが少なくなり減少。
資金収入調整勘定	△489,495	△559,738	△70,243	
当年度資金収入合計	2,839,686	3,013,071	173,385	
前年度繰越支払資金	1,361,616	1,475,603	113,987	雑収入は、県退職金財団よりの交付金が増えたのと過年度修正収入が発生し増えました。
収入の部合計	4,201,302	4,488,674	287,372	

(資金支出の部)		(単位：千円)		
科 目	26 年度決算	27 年度決算	差 異	
人件費支出	1,643,443	1,688,643	45,200	職員人件費は 23 百万程減少しましたが、教員人件費が 41 百万ほど増加し、退職金支出も 28 百万程増加しました。
教育研究費支出	465,756	455,567	△10,189	
管理経費支出	212,596	212,063	△533	専門学校(NWFB)は、生徒増で若干経費増となりましたが、それ以外の部門で経費節減努力が功を奏しトータルで減
借入金等利息支出	3,660	2,790	△870	
借入金等返済支出	151,851	133,313	△18,538	借入金等返済は、新規借入が無く、返済の進行で毎年度減少しています。
施設関係支出	40,793	377,637	336,844	
設備関係支出	37,667	46,312	8,645	高校の校舎耐震化工事及び専門学校の空調設備更新に併せた建物 ZEB 化工事を行いましたので大幅に増加しました。
資産運用支出	50,000	200,302	150,302	
その他の支出	179,779	84,511	△95,268	
資金支出調整勘定	△59,845	△83,447	△23,602	有価証券の洗い替えによる増加。
当年度資金支出合計	2,725,700	3,117,691	391,991	
次年度繰越支払資金	1,475,603	1,370,983	△104,620	25 年度に比べ 26 年度は退職金の支払いが少なかったため、前期末未払金支払支出が減少しました。
支出の部合計	4,201,303	4,488,674	287,371	

(2) 活動区分資金収支計算書

		(単位 千円)	
		科 目	金 額
教育活動による資金収支	収入	学生生徒等納付金	1,744,369
		手数料収入	24,806
		一般寄付金収入	4,520
		経常費等補助金収入	638,089
		付随事業収入	27,196
		雑収入	41,672
		教育活動資金収入計	2,480,652
	支出	人件費支出	1,688,643
		教育研究費支出	455,567
		管理経費支出	212,027
		教育活動資金支出計	2,356,237
	差引	124,415	
	調整勘定等	40,072	
	教育活動資金収支差額	164,487	
施設設備活動	科 目		金 額
	収入	施設設備寄付金収入	8,794
		施設設備補助金収入	171,221
		施設設備等活動資金収入計	180,015
	支出	施設関係支出	377,637
		設備関係支出	46,312
		施設設備等活動資金支出計	423,949
		差引	△ 243,934
		調整勘定等	△ 78,422
		施設設備等活動資金収支差額	△ 322,356
小計(教育活動資金収支差額+施設設備等活動資金収支差額)		△ 157,869	
その他の活動による資金収支	科 目		金 額
	収入	有価証券 売却 収入	200,000
		受取利息・配当金収入	10,516
		過年度修正収入	5,263
		預り金受入収入	15,988
		高校耐震化引当特定預金より繰入収入	100,000
		長期貸付金回収 収入	30
		その他の活動資金収入計	331,797
	支出	過年度修正支出	35
		借入金等利息支出	2,790
		借入金等返済支出	133,313
		有価証券 購入 支出	200,000
		特別研究特定資産繰入支出	302
		預り金支払支出	15,416
仮受金支払支出		5	
その他の活動資金支出計	351,861		
	差引	△ 20,064	
	調整勘定等	73,313	
	その他の活動資金収支差額	53,249	
支払資金の増減額(小計+その他の活動資金収支差額)		△ 104,620	
前年度繰越支払資金		1,475,603	
翌年度繰越支払資金		1,370,983	

活動区分ごとの調整勘定等の計算過程は以下のとおり。				
				(単位 千円)
項 目	資金収支	教育活動	施設設備等活動	その他の活動
	計算書計上額	による資金収支	による資金収支	による資金収支
前受け金収入	451,651	451,651	0	0
— 授業料 前受金 収入	220,375	220,375	0	0
— 入学金 前受金 収入	127,520	127,520	0	0
— 施設充実費前受金収入	39,400	39,400	0	0
— その他の前受金 収入	64,356	64,356	0	0
前期末未収入金 収入	128,694	55,381	0	73,313
資金収入調整勘定	△ 559,739	△ 487,940	△ 71,799	0
— 期末 未収入金	△ 125,504	△ 53,705	△ 71,799	0
— 前期末 前受金	△ 434,235	△ 434,235	0	0
収 入 計	20,606	19,092	△ 71,799	73,313
前期末未払金支払支出	44,792	32,266	0	0
前払金支払支出	1,903	1,903	12,526	0
期末長期未払金支払支出	22,395	0	22,396	0
資金支出調整勘定	△ 83,447	△ 55,149	△ 28,299	0
— 期末未払金	△ 66,608	△ 54,081	△ 12,526	0
— 期末長期未払金	△ 15,772	0	△ 15,773	0
— 前期末 前払金	△ 1,067	△ 1,068	0	0
支 出 計	△ 14,357	△ 20,980	6,623	0
収入計 - 支出計	34,963	40,072	△ 78,422	73,313

事業活動収支計算書

事業活動収支計算について資金収支計算と重複する部分は省略し、資金収支計算で説明していない部分の説明を加えてその内容をご報告いたします。

		科 目	26年度決算	27年度決算	差 異	
教育活動収入の部	事業活動収入の部	学制生徒等納付金	1,783,914	1,744,369	△39,545	入学検定料の減免が更に増え減少
		手数料	25,541	24,852	△689	現物寄付・一般寄付金ともに半減
		寄付金	12,053	5,070	△6,983	
		経常費等補助金	685,349	638,090	△47,259	地公体補助金は微減で済みましたが、大学・短大の在籍者数減で収容定員充足率が下がり国庫補助金配分が少なくなりました。
		付随事業収入	37,333	27,196	△10,137	
		雑収入	33,909	41,834	7,925	
		教育活動収入 計	2,578,099	2,481,411	△96,688	受託事業収入（県の介護人材確保事業収入）が減少。
教育活動支出の部	事業活動支出の部	人件費	1,664,558	1,696,045	31,487	転勤により異種の退職金財団に加入を余儀なくされた退職者が多く、退職金交付方式の違いから学園負担が27百万程発生し、収支に大きく影響。
		（うち退職金関係）	(41,731)	(56,145)	(14,414)	
		教育研究経費	727,628	698,509	△29,119	
		（うち減価償却費）	(261,499)	(242,816)	(△18,683)	
		管理経費	242,066	239,166	△2,900	減価償却費の減少が経費減に大きく寄与しました。
		（うち減価償却費）	(29,383)	(27,065)	(△2,318)	
		徴収不能額等	679	365	△314	
教育活動支出 計	2,634,931	2,634,085	△846			
教育活動収支差額			△56,832	△152,674	△95,842	
教育活動外収支	収入の部	受取利息・配当金	9,991	10,516	525	
		教育活動外収入 計	9,991	10,516	525	
	支出の部	借入金等利息	3,660	2,790	△870	借入金が返済一方のため減少。
		教育活動支出 計	3,660	2,790	△870	
教育活動外収支差額			6,331	7,726	1,395	
経常収支差額			△50,501	△144,948	△94,447	
特別収支	収入の部	その他の特別収入	3,981	188,057	184,076	高校の耐震化工事、専門学校空調機更新に併せた建物ZEB化工事に国庫補助金が付き大幅増。
		特別収入 計	3,981	188,057	184,076	
	支出の部	資産処分差額	3,610	8,942	5,332	高校のトイレ改修工事で未償却工事の処分損が発生し増加。
		その他の特別支出	0	35	35	
		特別支出 計	3,610	8,977	5,367	専門学校空調機更新に併せた建物 ZEB 化工事は除却も多く基本金組入額は少なかったが、高校の耐震化工事では2号積立分を上回る基本金組入が発生し、トイレ改修工事で除却を上回る基本金組入が発生し増加した。
特別収支差額			371	179,080	178,709	
基本金組入前当年度収支差額			△50130	34,132	84,262	
基本金組入額合計			△106,456	△189,575	△83,119	
当年度収支差額			△156,586	△155,443	1,143	

(3) 貸借対照表

貸借対照表について、前年度末からの増減の主なものの説明を付してご説明いたします。

科 目		26年度決算	27年度決算	差 異	
資 産	固定資産	13,086,318	13,134,885	48,567	有形固定資産は高校の校舎耐震化工事他、新規取得が多く簿価増加。
	有形固定資産	10,950,864	11,099,183	148,319	
	特定資産	2,109,337	2,009,639	△99,698	高校の校舎耐震化工事のため積み立ててあった2号基本金引当特定預金を取り崩したため減少。
	その他の固定資産	26,117	26,063	△54	
産	流動資産	1,724,994	1,617,824	△107,170	専門学校建物のZEB化工事は、補助金も多く頂きましたが、大型工事であったため資金流出も多く預金が減少。
	合 計	14,811,312	14,752,709	△58,603	

科 目		26年度決算	27年度決算	差 異	
負 債	固定負債	697,265	582,387	△114,878	長期借入金△115百万、退職給与引当金+7百万、長期未払金△7百万
	流動負債	760,539	782,683	22,144	
計		1,457,804	1,365,070	△92,734	今年度は期末退職者（退職金は翌月払）が昨年より多かったため未払金が22百万増、短期借入金18百万減、前受金17百万増で合計22百万増加しました。
基 本 金		17,599,908	17,789,484	189,575	1号基本金290百万増、2号基本金100百万減。
事業活動収支差額の部合計		△4,246,401	△4,401,844	△155,443	
合 計		14,811,312	14,752,709	△58,603	

(参考)

正 味 資 産	13,353,507	13,387,639	34,132
---------	------------	------------	--------

※ 正味資産＝資産－負債（＝基本金＋事業活動収支差額）

減価償却額の累計額	6,730,848	6,793,071	62,223
-----------	-----------	-----------	--------

1. 借入金の状況

当学園の借入金は下表のとおりです。22年度より愛知県私学振興事業財団から新規の授業料軽減借入をすることはなくなり、菊武ビジネス専門学校の授業料軽減借入金は償還を済ませましたが、菊華高校は、授業料軽減借入金として¥88,062,310、施設設備整備費借入金として¥11,703,000 合計¥99,765,310の借入残を有しております。しかし、この授業料軽減借入金及び施設設備整備費借入金は、償還に要する財源を愛知県から授業料軽減借入金償還補助金及び施設設備整備費借入金償還補助金として全額補填を受けることになっておりますので学園としての返済負担は発生しないものです。

(借入金明細表)

(単位：千円)

借 入 先	26年度末残高	27年度末残高	増 減	摘 要
日本私立学校振興・共済事業団	240,000	180,000	△60,000	キタクススポーツビルズ取得資金他
愛知県私学振興事業財団	173,078	99,765	△73,313	愛知県より全額補填あり
合 計	413,078	279,765	△133,313	

2. 学校債の状況

当学園は、学校債を発行いたしておりません。

3. 寄付金の状況

当学園に対する寄付金は26年度13,757千円でありましたが27年度は16,643千円となりました。一般寄付は6,983千円減となりましたが、施設設備関係寄付が9,869千円増えたため、寄附金としては、2,886千円増加しました。

IV. 決算期後に生じた学校法人の状況に関する重要な事実

該当する事実はございません。

V. 対処すべき課題

「2018年問題を控え、年々厳しくなる学生・生徒・園児募集にどれだけ成果を挙げられるか？」言い換えれば「各部門が収入を安定的に確保し自立すること」が対処すべき最優先課題であることに変わりありません。特に大学・短大で入学者を確保することが喫緊の課題です。